



2026年10月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2026年3月13日

上場会社名 くら寿司株式会社 上場取引所 東
 コード番号 2695 URL <https://www.kurasushi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 田中 邦彦
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役広報・IR本部長 (氏名) 岡本 浩之 TEL 072-493-6189
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：無
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年10月期第1四半期の連結業績（2025年11月1日～2026年1月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年10月期第1四半期	62,921	7.5	1,507	13.6	1,618	12.0	1,076	16.8
2025年10月期第1四半期	58,556	4.4	1,326	△24.1	1,445	△22.0	921	△27.1

(注) 包括利益 2026年10月期第1四半期 2,976百万円 (60.4%) 2025年10月期第1四半期 1,856百万円 (57.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2026年10月期第1四半期	27.08	27.08
2025年10月期第1四半期	23.18	23.18

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年10月期第1四半期	162,148	88,865	39.2
2025年10月期	156,015	86,258	40.0

(参考) 自己資本 2026年10月期第1四半期 63,584百万円 2025年10月期 62,338百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年10月期	—	0.00	—	20.00	20.00
2026年10月期	—	—	—	—	—
2026年10月期（予想）	—	0.00	—	15.00	—

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注2) 2026年5月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合をもって分割する予定です。上記の2026年10月期（予想）については、第2四半期末は分割前、期末は分割後の金額を記載しています。なお、当該株式分割を考慮しない場合の年間配当金は30円です。

3. 2026年10月期の連結業績予想（2025年11月1日～2026年10月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	257,000	4.9	5,000	△8.4	5,200	△15.8	3,000	△16.8	37.74

(注1) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

(注2) 2026年5月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合をもって分割する予定です。上記の1株当たり当期純利益については、当該株式分割を考慮した金額を記載しています。なお、当該株式分割を考慮しない場合は、75円48銭となります。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無
 新規 一社 (社名) 、除外 一社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2026年10月期 1 Q	41,399,600株	2025年10月期	41,399,600株
② 期末自己株式数	2026年10月期 1 Q	1,656,463株	2025年10月期	1,656,363株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2026年10月期 1 Q	39,743,137株	2025年10月期 1 Q	39,738,569株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。また、業績予想の前提条件その他関連する事項につきましてはP3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	5
四半期連結損益計算書	5
四半期連結包括利益計算書	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6
(セグメント情報等の注記)	6
(重要な後発事象の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間(2025年11月1日から2026年1月31日)におけるわが国経済は、雇用・所得環境などの改善は見られるものの、世界的な政情不安の継続や不安定な為替変動、米国における通商政策などの動向により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。外食産業全般におきましても、原材料価格や人件費の上昇など、厳しい状況が続いております。

このような状況のもと、当社グループは、特許技術である抗菌寿司カバー「鮮度くん」を開発・設置しているだけでなく、お客様が入れ替わるごとに醤油差しなどの備品を入れ替えるクリーンテーブル、従業員の技術や接客等を競うコンテストを海外子会社も含めた世界規模で開催し「現場力」を向上させ続けるなど、安心・安全で快適なお食事をしていただくためのさまざまな取り組みを行っております。

また、食べ終わったお寿司の皿5枚を各テーブルにある皿回収ポケットに入れるとゲームに挑戦でき、当たりが出ると景品がもらえる「ビックらポン!」は、当社を代表するシステムで、2000年の導入から今に至るまで大変人気となっております。さらに、大手回転寿司チェーンの中で唯一、回転レーンでお寿司を提供しているだけでなく、業界初となる日頃の感謝を伝えるサプライズサービス「プレゼントシステム」やお客様の笑顔を引き出す新サービス「スマイルチャレンジ」を開始するなどエンターテインメント性を常に進化させ続けており、楽しい食体験も追求しております。

店舗開発につきましては、国内3店舗、米国4店舗、台湾1店舗の計8店舗を出店いたしました。この結果、当第1四半期連結会計期間末の店舗数は、全て直営で695店舗(「無添蔵」5店舗、「くらおさかな市場」1店舗、米国83店舗、アジア61店舗を含む)となりました。

なお、EY Japanが主催する国際的アントレプレナー(起業家)表彰制度「EY アントレプレナー・オブ・ザ・イヤ(EOY) 2025 ジャパン」において、当社の田中邦彦社長が、マスター&ファミリービジネスリーダー部門大賞を受賞し、日本代表に選出されました。お客様の安心、安全のために、見えないとこを大切にす企業理念、業界の常識を変える独自のビジネスモデル、海外への積極的な展開、持続可能な水産業への取り組みなどが総合的に評価され選考されました。今後、田中社長は、2026年5月末にモナコ公国で開催される世界大会「EY ワールド・アントレプレナー・オブ・ザ・イヤ 2026」に、日本代表として出場予定です。

セグメント業績は次の通りであります。

① 日本

日本国内におきましては、都心部を中心にインバウンド需要が拡大する一方で、実質賃金は2022年以降一貫して減少傾向にあり、特に地方においてはその傾向が強くなっております。

そのような中、商品面では、当社の強みである「まぐろ」や「かに」、食品添加物であるミョウバンを一切使用していない「うに」など質の高い商品を中心としたフェアの展開だけでなく、毎日日替わりの魚が楽しめる「本日のおすすめシリーズ」や“万博レガシー”である「世界の料理」の新メニューなど付加価値の高い商品の販売も開始しました。また、販売促進面では、人気テレビアニメ「僕のヒーローアカデミア」や人気キャラクター「シナモロール」など話題性の高いコンテンツとのコラボ企画の実施により、売上高は好調に推移いたしました。米をはじめとした原材料価格の上昇が続く中、商品ごとのきめ細やかな商品設計を継続的に実施することで、適正な原価率のコントロールにも努めました。

出店につきましては、インバウンド需要に対応するプラス型店舗の「ルミネ大宮店」、「京都寺町通店」の他、「蒲田東店」を新規出店いたしました。

当社は財務戦略を重視し、さまざまな事業リスクに対応してまいりました。当社におきましては、前事業年度に引き続き実質無借金にて運営しており、当第1四半期会計期間末の自己資本比率は67.4%と財務の健全性を維持しております。

この結果、売上高450億4百万円(前年同期比4.7%増)、経常利益20億63百万円(前年同期比37.8%増)となりました。

② 北米

米国子会社 Kura Sushi USA, Inc. (KSU) におきましては、米国でも人気の「鬼滅の刃」や「ワンピース」とのコラボ企画を実施し好評であったものの、米国全域での消費冷え込みの影響により既存店売上は2.5%減少となりました。

出店につきましては、カリフォルニア州の「アルカディア店」、「モデスト店」、ニュージャージー州の「フリーホールド店」、「ローレンスビル店」の4店舗を新規出店。引き続き、積極的な店舗展開を図っております。

この結果、売上高111億27百万円(前年同期比15.8%増)、経常損失4億54百万円(前年同期は経常損失1億37百万円)となりました。

③ アジア

台湾子会社 亞洲藏壽司股份有限公司(KSA)におきましては、人気メニューを中心とした期間限定フェアの開催頻度の増加や、人気アニメ「ドラえもん」とのコラボ企画の展開等により売上高は順調に推移いたしました。また、出店につきましては、台南市に「永康永大路店」を新規出店いたしました。一方、上海店舗の閉鎖に伴う一時的な費用を計上いたしました。

この結果、売上高68億79百万円(前年同期比13.9%増)、経常利益は10百万円(前年同期比87.6%減)となりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績は、売上高629億21百万円（前年同期比7.5%増）、経常利益16億18百万円（前年同期比12.0%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は10億76百万円（前年同期比16.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における資産総額は、1,621億48百万円となり、前連結会計年度末と比較して61億33百万円増加いたしました。これは、主に有形固定資産が72億84百万円増加したこと等によるものであります。

負債につきましては、前連結会計年度末と比較して35億26百万円増加し、732億82百万円となりました。これは、主に固定負債のリース債務が39億33百万円増加した一方で、未払金が9億10百万円減少したこと等によるものであります。

純資産につきましては、主に親会社株主に帰属する四半期純利益10億76百万円を計上したことに加え、為替換算調整勘定が9億62百万円、非支配株主持分が9億38百万円それぞれ増加したこと等により、前連結会計年度末と比較して26億6百万円増加し、888億65百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年12月10日に公表いたしました業績予想につきまして、現在のところ変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年10月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年1月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	24,172	21,673
売掛金	6,296	7,076
有価証券	2,198	2,402
原材料及び貯蔵品	2,706	2,902
その他	2,625	3,004
流動資産合計	38,000	37,059
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	40,819	43,352
使用権資産(純額)	32,472	36,227
その他(純額)	23,088	24,085
有形固定資産合計	96,380	103,664
無形固定資産	2,027	2,038
投資その他の資産		
投資有価証券	4,340	4,361
長期貸付金	5,097	5,004
差入保証金	7,499	7,630
その他	2,669	2,389
投資その他の資産合計	19,606	19,386
固定資産合計	118,014	125,089
資産合計	156,015	162,148
負債の部		
流動負債		
買掛金	8,450	8,237
短期借入金	1,172	997
未払金	9,882	8,972
未払法人税等	739	876
その他	9,923	10,626
流動負債合計	30,168	29,710
固定負債		
リース債務	34,704	38,638
資産除去債務	4,194	4,286
その他	688	647
固定負債合計	39,587	43,572
負債合計	69,756	73,282
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,005	2,005
資本剰余金	14,489	14,489
利益剰余金	44,743	45,024
自己株式	△1,996	△1,996
株主資本合計	59,241	59,523
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△1	1
為替換算調整勘定	3,098	4,060
その他の包括利益累計額合計	3,096	4,061
新株予約権	2,633	3,055
非支配株主持分	21,286	22,225
純資産合計	86,258	88,865
負債純資産合計	156,015	162,148

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年1月31日)
売上高	58,556	62,921
売上原価	24,177	26,028
売上総利益	34,379	36,893
販売費及び一般管理費	33,052	35,386
営業利益	1,326	1,507
営業外収益		
受取利息	100	121
受取手数料	41	42
為替差益	54	1
雑収入	30	47
営業外収益合計	225	212
営業外費用		
支払利息	97	95
雑損失	10	6
営業外費用合計	107	101
経常利益	1,445	1,618
特別損失		
固定資産除却損	9	13
特別損失合計	9	13
税金等調整前四半期純利益	1,435	1,605
法人税、住民税及び事業税	327	711
法人税等調整額	246	90
法人税等合計	574	802
四半期純利益	861	802
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△59	△273
親会社株主に帰属する四半期純利益	921	1,076

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年1月31日)
四半期純利益	861	802
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	—	5
為替換算調整勘定	994	2,167
その他の包括利益合計	994	2,173
四半期包括利益	1,856	2,976
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,448	2,041
非支配株主に係る四半期包括利益	407	935

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年1月31日)
減価償却費	2,434百万円	2,520百万円

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2024年11月1日 至 2025年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	日本	北米	アジア	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	42,910	9,605	6,040	58,556	—	58,556
外部顧客への売上高	42,910	9,605	6,040	58,556	—	58,556
セグメント間の内部 売上高又は振替高	66	—	—	66	△66	—
計	42,977	9,605	6,040	58,623	△66	58,556
セグメント利益又は 損失(△)	1,497	△137	85	1,445	—	1,445

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2025年11月1日 至 2026年1月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	日本	北米	アジア	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	44,914	11,127	6,879	62,921	—	62,921
外部顧客への売上高	44,914	11,127	6,879	62,921	—	62,921
セグメント間の内部 売上高又は振替高	90	—	—	90	△90	—
計	45,004	11,127	6,879	63,012	△90	62,921
セグメント利益又は 損失(△)	2,063	△454	10	1,618	—	1,618

(注) セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の経常利益と一致しております。

(重要な後発事象の注記)

(株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更)

当社は、2026年2月18日開催の取締役会において、株式分割及び株式分割に伴う定款の一部変更を行うことについて決議いたしました。

1. 株式分割の目的

株式分割により投資単位の水準を引き下げるにより、当社株式の流動性の向上及び投資家層の更なる拡大を図ることを目的としております。

2. 株式分割の概要

(1) 分割の方法

2026年4月30日最終の株主名簿に記録された株主の所有する普通株式1株につき2株の割合をもって分割いたします。

(2) 分割により増加する株式数

① 株式分割前の発行済株式総数	41,399,600 株
② 今回の分割により増加する株式数	41,399,600 株
③ 株式分割後の発行済株式総数	82,799,200 株
④ 株式分割後の発行可能株式総数	320,000,000 株

(3) 1株当たり情報に及ぼす影響

当該株式分割が前連結会計年度の期首に行われたと仮定した場合の1株当たり情報は、以下のとおりです。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2024年11月1日 至 2025年1月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2025年11月1日 至 2026年1月31日)
1株当たり四半期純利益	11.59円	13.54円
潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益	11.59円	13.54円

3. 分割の日程

(1) 基準日公告日	2026年4月14日 (予定)
(2) 基準日	2026年4月30日 (予定)
(3) 効力発生日	2026年5月1日 (予定)

4. 株式分割に伴う定款の一部変更について

(1) 定款変更の理由

株式分割に伴い、会社法第184条第2項の規定に基づき、2026年5月1日をもって、当社の定款第6条の発行可能株式総数を変更いたします。

(2) 定款変更の内容 (下線部分は変更箇所を示しています)

変更前	変更後
(発行可能株式総数) 第6条 当社の発行可能株式総数は、 160,000,000株とする。	(発行可能株式総数) 第6条 当社の発行可能株式総数は、 320,000,000株とする。